

令和5年度博物館事業の実施状況の関係資料

- 1 企画展開催結果等・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～6ページ
- 2 常設展開催状況等・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 3 博物館入館者の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 4 インターネット関連広報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9～10
- 5 調査研究成果等・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11～12
- 6 鳥取県ミュージアム・ネットワーク関連・・・・・・・・・・ 13
- 7 資料収集状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

企画展「ノーベル賞受賞100年記念 アインシュタイン展」の開催結果について

展覧会名	企画展「ノーベル賞受賞100年記念 アインシュタイン展」
会 期	令和5年7月1日（土）～8月27日（日）〔休館日6日を含む58日間〕
会 場	鳥取県立博物館 2階 第1・第2特別展示室
主 催	アインシュタイン展実行委員会（鳥取県立博物館・日本海テレビジョン放送株式会社）・読売新聞社

1 事業概要

20世紀最高の物理学者である、アルバート・アインシュタインが解明した4つの科学理論について、体験装置やゲーム、科学玩具、最新映像技術を駆使し、子どもから大人まで楽しみながら学べる展示とした。また、アインシュタインの手紙や資料、幼少時の挫折体験や晩年の平和活動、ユニークな名言などアインシュタインの深みのある人間性も紹介した。

2 開催結果

(1) 企画展入場者数 23,731人（目標 11,000人） ※入場者数歴代7位

大阪での巡回展で子どもたちが体験装置をしている動画を広報（テレビCM）に使用したことで、来館者のイメージが沸きやすかったこと、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、外出制限のない夏休みとなったことなどを要因として入場者数が多くなったと考えられる。本企画展の成果と課題としては以下の点があげられる。

- 来館者アンケート（2,133件、回答率9%）では、大変よかった・よかったと回答された方が99.5%（大変よかった65%・よかった34.5%）であり、来館者の満足度は極めて高かった。
- 夏季開催ということで、子どもたちが科学に興味を持つきっかけづくりとして、舌を出した顔写真が有名な「アインシュタイン」をテーマに設定し、難解な物理学を体験型展示でわかりやすく伝えることに焦点を絞って展示構成を作り上げた。ポスター、チラシの広報効果も大きく、前売り券もほとんど売り切ることができ、関心の高さがうかがえた。
- 「クイズラリー」と「名言カード」を自作設置したところ大変好評であった。
- 体験型展示の中でも、「光の粒で電子を飛ばそう!」「爆弾解除!光速サイクリング」の2件は特に人気が高かった。
- 展示を監修した名古屋市科学館の山田主任学芸員、大阪市立科学館の西野学芸員、上羽学芸員にそれぞれ講演会やイベントを依頼した。また、ミニプラネタリウムでは鳥取市のさじアストロパークと、アインシュタインに関する図書コーナーや読み聞かせでは鳥取県立図書館に協力していただいた。いずれも来館者に好評であった。
- 今年度も学校や園の行事で来館していただけるよう、夏休み前の7月1日を開幕日とした。また、夏休み期間中には放課後児童クラブに案内文書をお送りした。その結果、52の学校等の利用があり、学校等の博物館利用を促進することができた。
- 駐車場不足やバリアフリー化の不十分、展示室内の空調の弱さなどの苦情があった。従前の当館の課題はまだ解消されていない。

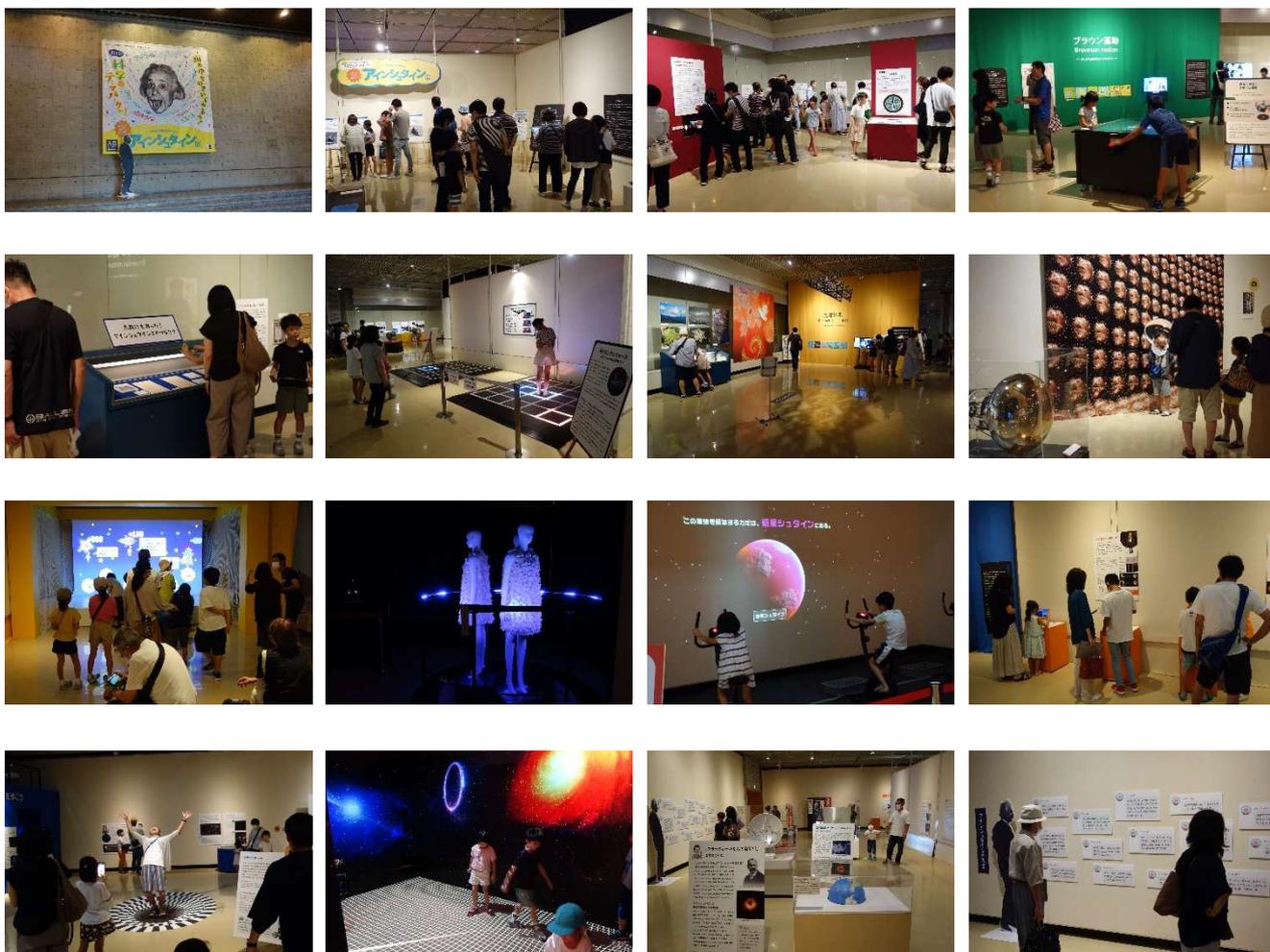
(2) 関連行事参加者数

- ・講演会「のぞいてみよう!アインシュタインの頭の中」(7/1)計60人
- ・関連イベント「ミニプラネタリウムがやってくる」(7/15～17(3日間・1日4回))計258人
- ・サイエンスショー「光の三原色RGBのヒミツをさぐれ!」(8/12・1日2回)計250人
- ・出前図書館(7/1)計374人
- ・出張!鳥取県立図書館「科学絵本の読み聞かせ～アインシュタイン☆ほんと?ほんと!」(7/26)計66人

(3) 主な反響 (入場者アンケートから 回答者1, 060人)

- ・展示だけでなく、体験して遊べるものもあって楽しく学ぶことができました。
- ・大人も興味を持てる内容で子供向けに分かり易く説明してありよく理解できました。
- ・アインシュタインという名前は知っていても何をしてノーベル受賞されたのか知らなかったので良い機会でした。
- ・普段ふれることがない物理や宇宙の話を知ることができてよかったです。
- ・鳥取に関わるものもあった。(※前田寛治が描いたスケッチ)
- ・アインシュタインと日本のかかわりが分かって興味深かったです。
- ・各ブースに、係の方がおられ、ていねいに説明していただけて、わかりやすく学べた。
- ・小学生には読めない文章が多かった。ふりがながあれば良いと感じた。
- ・私は、「知るよろこび。それは自然界からの最大のおくりものです」という言葉が好きです。
- ・毎回クイズが楽しみで、今回もワクワクしながら楽しめました。クイズがあることで、より集中して見られてよかったです。今回は体験型ということで、過去の企画展よりも全身で楽しむことができました。

▼展覧会の風景



企画展「勾玉の世界」の開催結果について

展覧会名	企画展「勾玉の世界」
会 期	令和5年10月7日（土）～11月12日（日）〔休館日1日を含む37日間〕
会 場	鳥取県立博物館 2階 第1・第2特別展示室
主 催	勾玉展実行委員会（鳥取県立博物館・山陰中央テレビジョン放送株式会社）

1 事業概要

(1) 展示概要

当館所蔵の国の重要文化財（重文）の子持勾玉をはじめ、鳥取県内外のユニークな勾玉を集め、北は青森県から南は奄美大島の資料を一堂に会して勾玉の形や素材、大きさ、使用法等多様なあり方を示す勾玉について紹介した。

展示品は小さく、展示室が広いので、ガラスの上部をフィルムで覆い、来館者の視線を下げる工夫や、ガラスの壁面に沿ってLEDテープを這わせて明るさを補う工夫などを行った。良質なヒスイ本来の色と輝きの鑑賞と、表面観察との両立を図るため、展示品の下からLEDライトの光をゆっくりと点滅させながら当て、透過光と反射光の2通りで見てもらおう試みを行った。重文の子持勾玉を形や重さを身近に感じてもらえるよう同形同大で同じ重さのレプリカを作成して、装飾品としての勾玉の大きさ、重さを超えたものであることを体感できるコーナーを設置した。

(2) 関連イベント等

- ・期間中、ギャラリートークを合計8回開催（10/7、14、28、11/4のそれぞれ午前11時～12時と午後2時～3時）参加者数 計128人
- ・勾玉づくりを合計8回開催（10/8、15、29、11/5のそれぞれ午前10時～11時30分と午後2時～3時30分）参加者数 計146人

2 開催結果

(1) 展覧会入館者数 3,840人（目標5,000人）

- 体験イベントの参加者にもいえることだが、来館者は年齢や性別に隔たりなく、歴史ファンが多いシニア層以外にも幅広い層の人々が関心を寄せていた印象を受けた。
- アンケート結果をみると、来館者の感想としてきれいなヒスイが見ることができてよかったといった意見が多かったため、新しい展示手法の試みとしては効果があったものと思われる
- アンケートの感想では、「大変よかった」という感想の割合は、57%にとどまり6割に満たないことから、満足度はやや低かったのではないかと思われる。
- 本企画展の会期中に、数件の県内資料の持ち込み相談を受けた。中には後期古墳の出土品とみられるものもあり、まだまだ県内に眠る身近な考古資料の見直しの契機にもなったものと思われる。

(2) 主な感想（入場者アンケートから 回答者173人）

- いろいろな勾玉があって見るのがとても楽しかったです。勾玉の展示が工夫されてよかったです。
- 案内の勾玉が多く初見もあり、見応えがありました。
- 観覧料の割に展示がいまひとつ。
- 暗い、文字が小さい、展示が低い、説明が少ない、展示用の台が古くきたない、県内出土のものだけでも地図が欲しい。でも人が少なくゆっくりみえた。

(3) 反省点

開幕までは借用、展示作業、開幕後は解説板の補充やイベントや来館者対応等で図録作成が後回しとなり、図録の発行が大幅に遅れた。今後は、役割分担の見直し等を行い、全体の遅れが生じないようにしていきたい。

▼展覧会の風景



写真1：入口のディスプレイ



写真2：第一特別展示室の展示風景



写真3：第二特別展示室の展示風景



写真4：第二特別展示室の展示風景



写真5：ヒスイ製勾玉のLED照明



写真6：展示の様子（左から2番目は初公開）



写真7：ヒスイ製勾玉のLED照明



写真8：体験コーナー

令和5年度企画展 ミュージアムとの創造的対話04
「ラーニング／シェアリング ー共有から未来は開くか？」
開催要項

1 趣旨

「ミュージアムとの創造的対話」は、ミュージアムを巡る問いを契機に、国内外の優れたアーティストによる実験的で多彩な表現を展示室の内外に展開させることで、思考を促し、人やモノ、場との対話を重ねながら、その現代的な意味を探ることを目的としたシリーズ企画展です。

第4回目の今回は、「ラーニング／学び」と「シェアリング／共有」をテーマに、同時代を生きるアーティストの作品やプロジェクトを通じて、従来の美術教育にはとどまらない「第3の学びの場」としてのミュージアムの可能性について考察します。昨今のミュージアムでは、知識や情報を教える教育普及から、自発的で主体的な学び／ラーニングへと重心がシフトし、さまざまな経験や出来事を分かち合うシェアリングへの関心が高まっています。作品との出会いをきっかけに、思考を巡らせ、行為や表現に移すプロセスにおける創造性が注目を集めると同時に、アートを通じて自分とは異なる他者と出会い、その声に耳を傾け、誰かについて想いを馳せることで、社会的な分断や孤立が進むこの世界を生きるための態度を養う試みが各所で行われています。

本展覧会では、作品展示やワークショップ、住民参加型のプロジェクト等を実施し、鑑賞にとどまらず体験やコミュニケーション／ディスカッションなどさまざまな「学び」の現場を作り出すことで、社会教育施設としてのミュージアムという場を改めて見直し、これからの活動の指針を探ります。

2 会期

令和5年11月26日（日）～12月28日（木）（32日間） ※12月11日（月）は休館

3 会場

鳥取県立博物館2階 第1、第2特別展示室および中庭、鳥取県内のマクドナルド

4 参加作家

小沢剛、高山明、リクリット・ティラヴァニ

5 関連事業

11月26日（日）14時～15時30分 アーティスト・トーク（小沢剛、高山明）

12月17日（日）14時～15時 アーティスト・トーク（リクリット・ティラヴァニ）

12月23日（土）15時～ トーク・イベント（小沢剛＋ヤギの目、小林朋道氏）

6 入場料

一般700円、大学生・70歳以上の方・前売・20名以上の団体500円

※高校生以下の方、学校教育活動での引率者、障がいのある方、難病患者の方、要介護者等及びその介護者は無料

7 主催

創造的対話展実行委員会（鳥取県立博物館、日本海テレビジョン放送株式会社）

8 協賛

日本通運株式会社、株式会社モリックス・ジャパン、株式会社吉備総合電設、三和商事株式会社、株式会社鳥取県情報センター

9 協力

株式会社中川ケミカル、公益財団法人石川文化財団、マクドナルド、メイちゃん牧場、Gallery SIDE 2、MISA SHIN GALLERY

令和5年度企画展
生誕二〇〇年 根本幽峨 NEMOTO Yūga
—近世鳥取画壇の「黄金時代」最後の華—
開催要項

1 趣旨

江戸時代後期から幕末にかけての鳥取藩には、実力ある個性的な画家たちを数多く見出すことができます。「因幡画壇の黄金時代」とも称されるこの時代の画家たちについては、「沖一峨」展(平成18年)、「因幡画壇の奇才 楊谷・元旦」展(平成22年)、「鳥取画壇の祖 土方稻嶺」展(平成30年)など、当館で開催された展覧会を通じて諸相に光が当たり、また、このような画家たちの集った鳥取藩の特異性に注目が集まりました。しかし、「黄金時代」の最後期を飾る幕末の鳥取藩絵師 根本幽峨(1824 - 66)については、いまだ大規模な回顧展が開催されていません。

幽峨は文政7(1824)年鳥取城下の商家 砂田屋に生まれます。幼い頃より絵が巧みで、天保年間頃に江戸へ出て修行し、天保13(1842)年頃より鳥取藩絵師 沖一峨(1796 - 1861)に師事したと考えられます。一峨より狩野派の画法を学んだ幽峨は、師とともに藩の画事に携わり、安政5(1858)年に藩絵師に召し出されました。鳥取へ帰った際に大量の名画の模写を携えたと伝えられ、慶応2(1866)年に42歳という若さで病没したにもかかわらず、大作を中心として県東部に数多くの優品が残っています。古画の学習に裏打ちされ、師の一峨にも引けを取らぬほどの幅広い画域は、謹直な線を用いた狩野派らしい山水・人物図から、宋代から明代にかけての中国絵画の筆法に忠実に倣った作品、土佐派の古画に学んだ濃彩やまと絵、草体による真景図などにも及びます。また、数多くの門弟を育て、近代鳥取の日本画家たちにも多大な影響を与えました。

本展覧会では、幽峨の摸本を中心に幽峨の修業時代を追い、次いで藩の画事として携わった作品や代表作を一堂に展示する予定です。激動の時代にあって商家から士分に取り立てられ、絵筆を手に人生を切り開いた稀有な藩絵師の全貌をご紹介します。

2 会期

令和6年2月10日(土)～3月20日(水)

休館日：会期中2月12日を除く毎週月曜日、および2月13日 開館日数34日

3 会場

鳥取県立博物館 第1・第2・第3特別展示室

4 主催

「根本幽峨展」実行委員会(鳥取県立博物館、山陰中央テレビジョン株式会社)

5 入場料

一般700円、大学生・70歳以上の方・前売・20名以上の団体500円

※高校生以下の方、学校教育活動での引率者、障がいのある方、難病患者の方、要介護者等及びその介護者は無料

6 関連事業

特別講演会や展示解説などを開催予定

令和5年度 常設展の展示概要

自然展示室

■「自然の窓」コーナー

期間	テーマ	担当
令和5年6月20日～9月10日	天然岩絵具 ～絵画を彩る鉱物たち～	田邊主任学芸員
令和5年9月12日～（展示中）	知ってるようで知らない赤とんぼの世界	鶴学芸員

■「身近な植物」コーナー

期間	テーマ	担当
令和5年6月27日～11月19日	新着資料紹介「巨大キノコ オオミヤマ トンビマイ」	清末学芸員
令和5年11月21日～（展示中）	クリスマスを彩る植物たち	

※令和5年12月2日に「辰巳峠の化石」コーナーをリニューアルした。展示資料および解説パネルを更新し、植物化石の比較用に現生植物の透明葉脈標本を展示したほか、昆虫化石の展示を充実させた。また辰巳峠産化石のうち「タイプ標本」（植物化石3点、昆虫化石1点）を12月24日までの期間限定で展示した。

歴史・民俗展示室

■「歴史の窓」

期間	テーマ	担当
令和5年7月11日～9月10日	クラカメ！沖正カメラコレクション	福代主幹学芸員
令和5年9月12日～11月12日	勾玉の世界展関連企画―宝石をまとった鳥取藩の宝刀―	来見田主任学芸員
令和5年11月14日～令和6年1月21日	新発見！鳥取池田家旧蔵のやきもの	大嶋主任学芸員

1階美術展示室

※臨時収蔵庫として利用するために当面休室

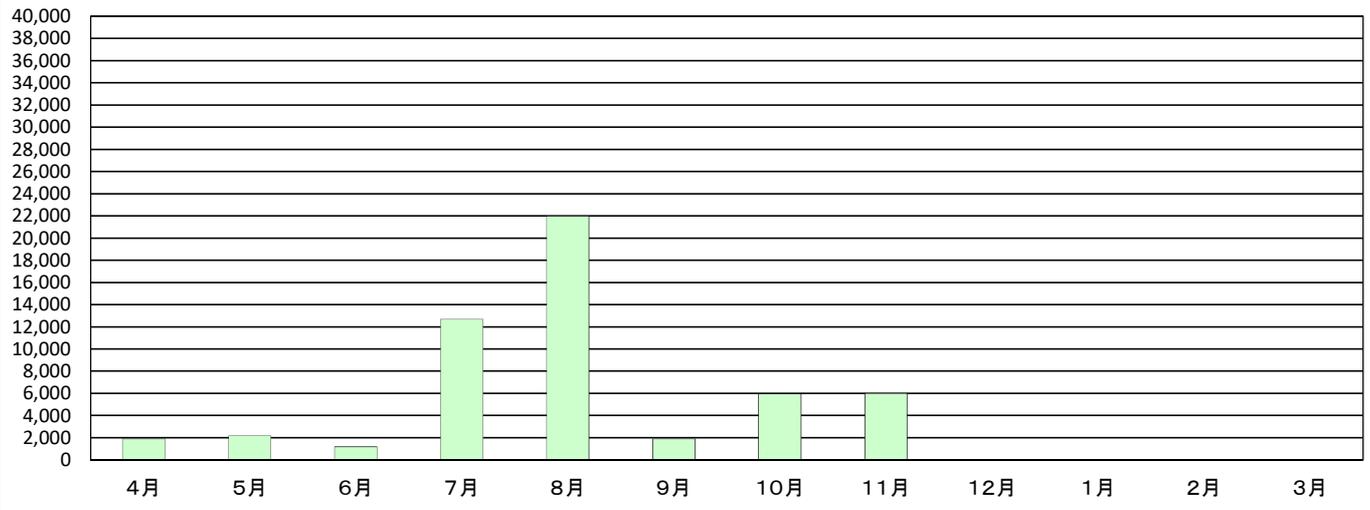
2階近代美術展示室(第3特別展示室)

期間	テーマ	担当
令和5年4月15日～5月14日 (第1・第2特別展示室で開催)	センス・オブ・サイズ ～「大きさ」という視点からアートを読み解くと	三浦課長
令和5年10月15日～11月12日 (第3特別展示室で開催)	シリーズ：美術をめぐる場をつくるV 赤ちゃんたちのためのアート鑑賞パラダイス	佐藤専門員

令和5年度 博物館入館者の状況

【鳥取県立博物館利用者数】

＜令和5年11月30日現在＞



区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	備考 R4同期
来館者	常設展(A)	1,801	2,015	1,099	3,347	6,476	1,786	3,353	3,646				23,523	28,594
	企画展(B)	0	0	0	8,880	14,851	0	2,315	2,151				28,197	74,240
	普及活動(館内)(C)	63	148	77	431	624	88	255	192				1,878	1,133
	研究相談(D)	16	19	4	16	21	13	11	2				102	111
	小計	1,880	2,182	1,180	12,674	21,972	1,887	5,934	5,991				53,700	104,078
	県展・ジュニア県展(E)	0	0	0	0	0	3,485	0	0				3,485	3,703
	貸館利用者数(F)	0	1,249	2,845	432	2	783	439	179				5,929	4,068
	ミューゼ利用者数(I)	917	1,155	850	1,391	1,813	1,114	1,117	832				9,189	9,826
	総来館者数	2,797	4,586	4,875	14,497	23,787	7,269	7,490	7,002				72,303	121,675
普及活動(館外計)	161	450	472	368	307	304	143	263				2,468	2,305	
博物館利用者総計	2,958	5,036	5,347	14,865	24,094	7,573	7,633	7,265				74,771	123,980	

＜企画展別入館者数＞

令和4年度	
企画展名	入館者数(人)
三蔵法師が伝えたもの	4,705
ティラノサウルス展	64,139
すべてみせます！ 収蔵庫の資料たち	7,490
安岡信義 近代洋画の黎明期を生きた画家	2,207
計	78,541

令和5年度	
企画展名	入館者数(人)
ノーベル賞受賞100年記念 アインシュタイン展	23,731
勾玉の世界	3,840
ミュージアムとの創造的対話04	(開催中)
生誕二〇〇年 根本幽峨	(2月開幕)
計	27,571

＜主な貸館による入館者数＞

令和4年度	
企画展名	入館者数(人)
第61回麒麟のまち鳥取市美術展	2,080
伯耆しあわせの郷 織物教室30周年展	1,040
第66回鳥取県美術展覧会	3,703
第20回鳥取県ジュニア美術展覧会	2,323
あいサポート・アートとっとり展東部巡回展	546
計	9,692

令和5年度	
企画展名	入館者数(人)
第62回麒麟のまち鳥取市美術展	2,066
第50回記念山陰書人社展・言水抱泉書展	1,623
第67回鳥取県美術展覧会	3,485
「楽しいキルト」Vol. 2	508
計	7,682

鳥取県立博物館におけるインターネット関連広報について

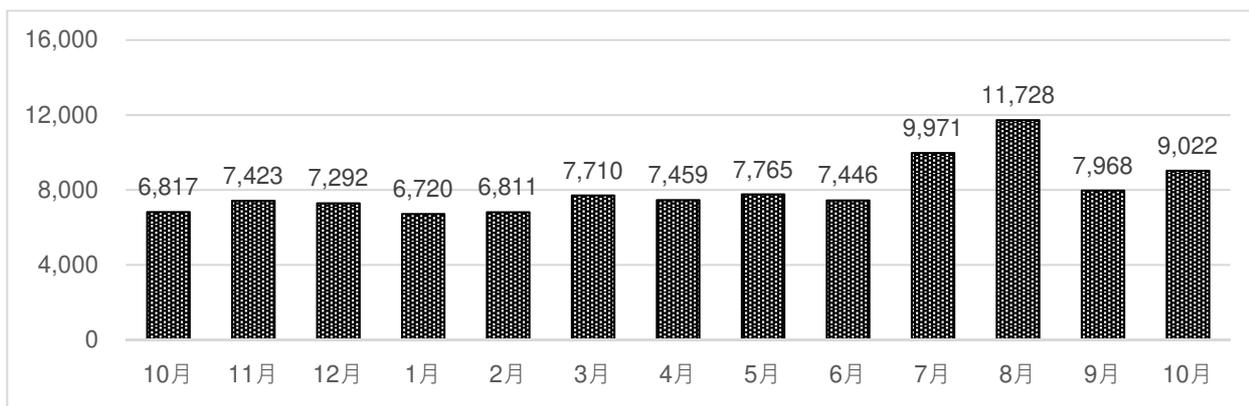
1. とりネット（ホームページ）による広報

企画展の情報を適宜更新する他、常設展示の内容などをまとめている。収蔵資料データベースは、令和3年3月1日から、県立4館合同のデジタルアーカイブシステム「とっとりデジタルコレクション」にデータを移管して公開している。

《鳥取県立博物館ホームページのアクセス数の推移》

R4年10月～R5年10月

※博物館トップページのアクセス数のみ。Facebook から直接、企画展等のリンクに飛んだ場合はカウントされていない。

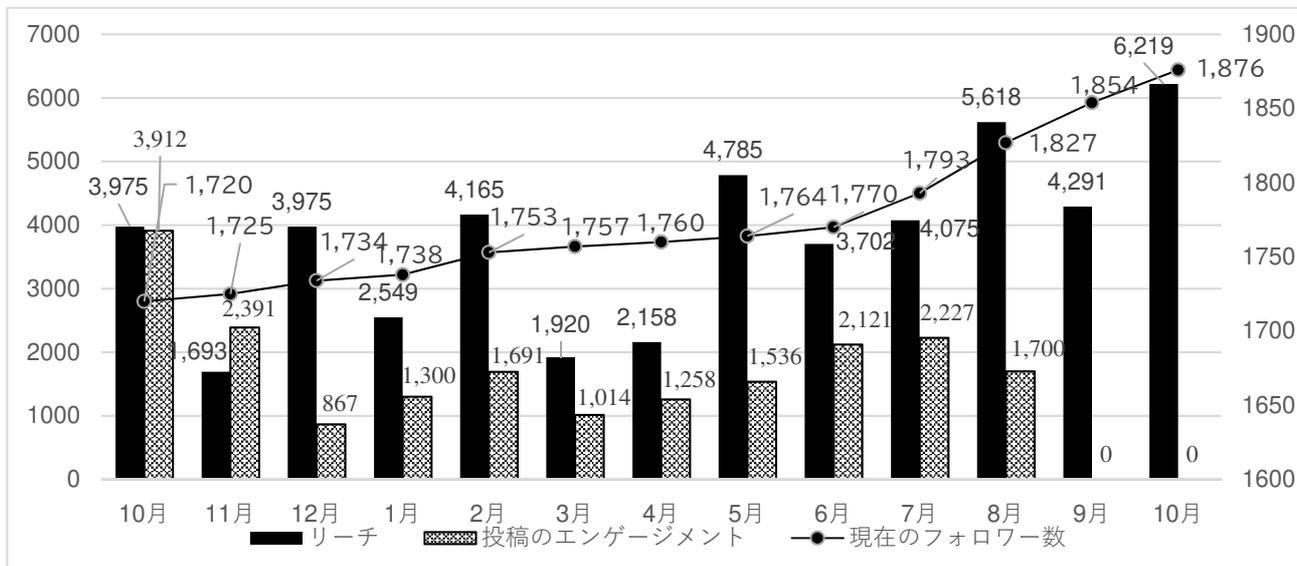


2. SNS（Facebook）による広報

平成28年9月より鳥取県立博物館のFacebookの運用を開始。投稿内容は、企画展情報や普及講座の参加募集・実施状況の他、マスコミへ資料提供など、博物館利用者へ情報を拡散したいものとしている。また、令和2年5月8日より美術部門学芸チームがInstagramの運用を、令和3年12月からTwitterの運用を開始した。

《鳥取県立博物館 Facebook ページのアクセス数の推移》

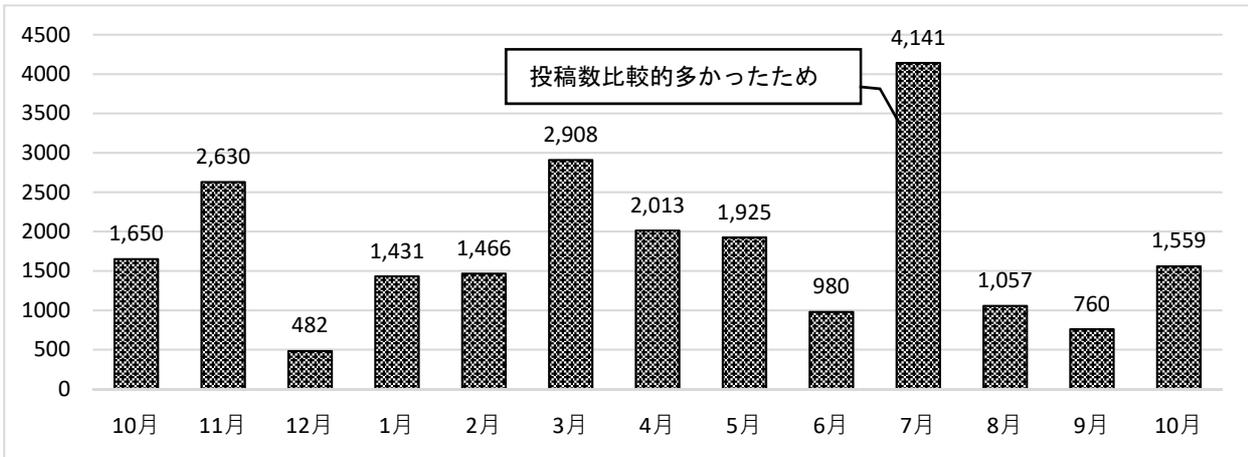
（リーチが多かった記事）



2-2. SNS (Instagram) による広報

フォロワー数 1,113 (令和5年11月1日時点)

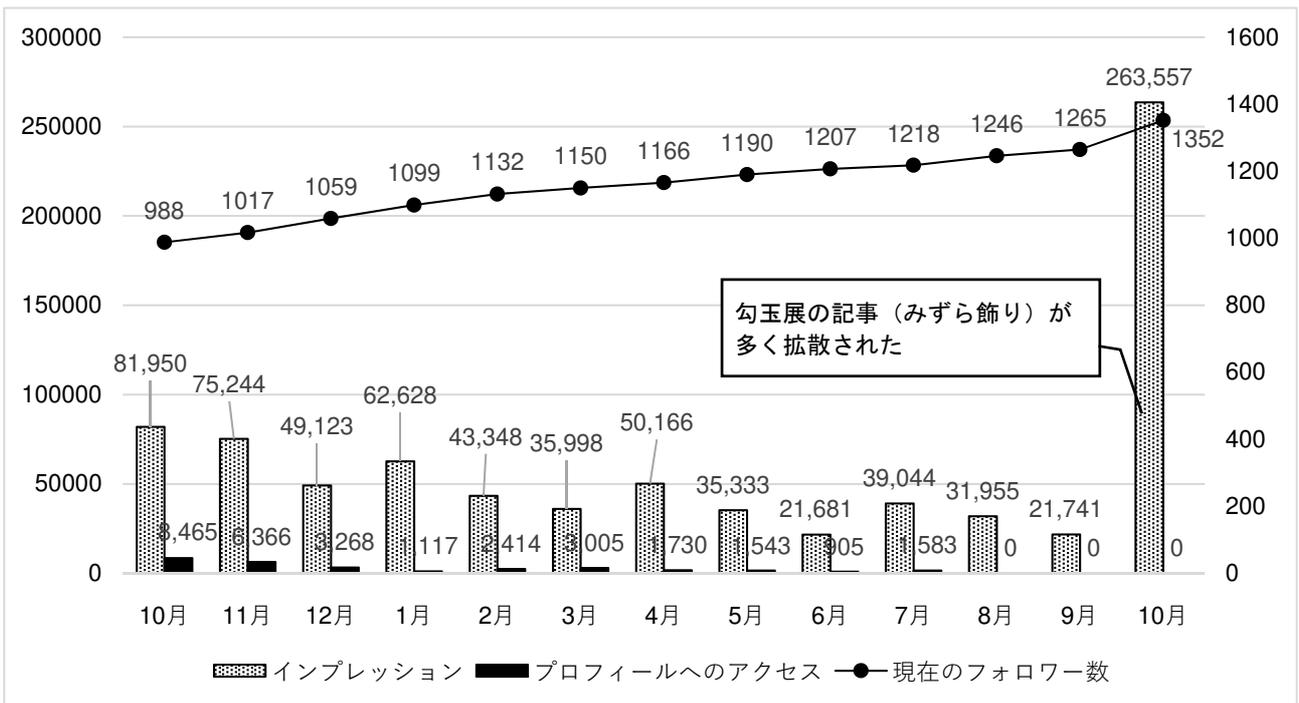
《美術部門学芸チーム Instagram ページのアクセス数の推移》



2-3. SNS (Twitter) による広報

フォロワー数 1,352 (令和5年11月1日時点)

※8月以降はプロフィールへのアクセス数は表示されなくなった



令和5年度研究成果および令和5年度調査研究テーマ（人文）

令和5年度研究成果（論文発表）

Horo-zeme in the battle for Tottori castle (1581): the first description of refeeding syndrome in Japan [天正9年(1581年)鳥取城の戦いにおける「兵糧攻め」：日本におけるリフィーディング症候群の最初の記述] *The American Journal of the Medical Science* (2023年8月発行)

著者：鹿野泰寛・青山彩香・山本隆一朗

令和4～5年度調査研究計画

長期目標（部門別テーマ）

鳥取県の歴史（原始古代～近現代）、民俗に関わる実物資料及び事象の情報を収集・保存し継承する。

中期目標（年度テーマ）

考古分野

- ・館蔵品の調査研究

平成31年度～令和5年度 担当：小山 共同研究者：なし

- ・鳥取県内の原始・古代の遺跡の調査研究

平成31年度～令和5年度 担当：小山 共同研究者：なし

成果発表形態：展示

歴史分野

- ・鳥取県内の釈迦十六善神像及び大般若経の調査

令和3年度～令和4年度 担当：大嶋・福代

成果発表形態：展示、報告書

民俗分野

- ・鳥取県内の社寺の棟札に関する調査研究

平成24年度～令和4年度 担当：福代 共同研究者：藤木竜也（千葉工業大学准教授）

成果発表形態：研究報告、展示

- ・幻獣・妖怪に関する伝承の調査研究

令和5年度～令和7年度 担当：福代 共同研究者：なし

成果発表形態：展示

総合分野

- ・文化財の状況調査

三朝町俵原を予定

令和5年度以降の調査研究取組内容（美術）

令和5年度調査研究実績

- ・鳥取県ゆかり及び国内外の優れた美術等に関係した美術資料、作家や作品等に関する調査研究
令和5年度企画展「ミュージアムとの創造的対話04展」に関する調査研究

令和5年度以降の調査研究取組内容

近世美術分野

- ・令和5年度企画展「根本幽峨展」に関する調査研究
担当：山田
- ・「鳥取県にゆかりのある近世以前の作家の展開に関する調査研究」
随時 担当：山田 共同研究者：未定 成果発表形態：論文、展覧会
- ・「杉浦（土方）家伝来資料に関する調査研究および目録化」
令和7年度まで 担当：山田 共同研究者：未定 成果発表形態：論文、展覧会

近代美術分野

- ・「鳥取県ゆかりの洋画家における西洋美術受容の実践に関する調査研究」
随時 担当：友岡 共同研究者：なし 成果発表形態：論文、セミナー、展覧会
- ・「鳥取における美術・文芸の同人に関する研究：収蔵資料を含む現存資料の調査および目録化」
令和6年度まで 担当：友岡 共同研究者：未定 成果発表形態：論文、展覧会、口頭発表
- ・「鳥取県にゆかりのある近代日本画家に関する調査研究」
随時 担当：山田 共同研究者：未定 成果発表形態：論文、展覧会

現代美術分野

- ・「福嶋敬恭の作品の展開に関する調査研究」
令和6年度まで 担当：赤井 共同研究者：なし 成果発表形態：論文、展覧会
- ・「鳥取県ゆかりの現代美術作家に関する調査研究」
随時 担当：赤井 共同研究者：なし 成果発表形態：展覧会
- ・「現代美術作品による制度批評および社会に介入する芸術についての調査研究」
随時 担当：赤井 共同研究者：なし 成果発表形態：論文、企画展
- ・「地域型アートプロジェクトにおける批評とキュレーションに関する調査研究」
随時 担当：赤井 共同研究者：小泉元宏(立教大学) 成果発表形態：論文、展覧会、口頭発表

写真分野

- ・「鳥取県にゆかりのある写真家に関する継続的調査研究」
随時 担当：赤井 共同研究者：なし 成果発表形態：セミナー、論文、展覧会

工芸・デザイン分野

- ・「鳥取県にゆかりのある現代の工芸家に関する継続的調査研究」
随時 担当：三浦 共同研究者：なし 成果発表形態：企画展、セミナー、論文
- ・「手仕事の技術を生かした現代・国内外のデザインに関する調査研究」
随時 担当：三浦 共同研究者：なし 成果発表形態：エッセイ、セミナー、論文
- ・「山陰の絁織りに関する技法および様式に関する調査研究」
令和7年度まで 担当：三浦 共同研究者：未定 成果発表形態：セミナー、論文、常設展示
- ・「鳥取県出身の工芸家・岡村吉右衛門のスケッチおよびノート類に関する調査研究」
令和7年度まで 担当：三浦 共同研究者：なし 成果発表形態：セミナー、論文、常設展示

美術館教育分野

- ・『『来館者の学び』』に関する理論と方法に関する調査研究」
随時 担当：佐藤 共同研究者：デジタル鑑賞教育研究会
成果発表形態：展示、ワークショップ、口頭発表
- ・「地域に根ざしたアートコミュニケーション事業の在り方に関する調査研究」
随時 担当：山本 共同研究者：なし 成果発表形態：ワークショップ、広報物の発行
- ・「美術館の教育普及機能の有効化・充実に向けた、館内外における実践的な調査研究」
随時 担当：外村 共同研究者：未定
成果発表形態：教育普及事業、アウトリーチプログラム、教員研修、ワークショップ等

令和5年12月15日(金)午後1時30分～午後4時 30 分

会場:倉吉博物館 会議室(倉吉市仲ノ町3445番地8)

令和5年度 鳥取県ミュージアム・ネットワーク研修会

1 あいさつ

2 諸連絡

・加盟館の状況について

3 出席館から

4 研修

テーマ)文化財施設における空気環境調査と対策

講師:光明理化学工業株式会社 営業支援室次長 山崎正彦 さん

北川式ガス検知管の開発・製造メーカーである光明理化学工業株式会社に勤務。文化財保存に関する調査や研究も多数行っており、多くの博物館・美術館の空気環境対策の助言等にも取り組んでいる。

(メモ)

5 その他

令和5年度 資料収集等の状況について

令和5年11月時点

1 博物館資料保有状況

部 門	前年度末 保有点数	本年度中増加点数					本年度中 減少点数	R4年11月 保有点数
		購 入	寄 贈	採 集	保管換	分類換		
地 学	8,631							8,631
動 物	36,516							36,516
植 物	56,271							56,271
歴 史	59,054	7						59,061
近現代	8,405	16						8,421
民 俗	4,291		61					4,352
考 古	8,292							8,292
美 術	10,618		45					10,663
合 計	192,078	23	106	0	0	0	0	192,207

2 購入(製作)資料

部 門	資 料 名
地 学	なし
動 物	なし
植 物	なし
歴 史	池田家伝来大名道具一式6件、東館家臣別所家資料一括
近現代	鳥取県関係絵葉書8件15点、鳥取県関係パンフレット1点
民 俗	なし
考 古	なし
美 術	なし

3 寄贈資料

部 門	資 料 名
地 学	なし
動 物	なし
植 物	なし
歴 史	なし
近現代	なし
民 俗	護摩祈祷札61枚
考 古	なし
美 術	辻晋堂試作小品資料14点、池本恵鳥資料4点、川俣正《Project on Roosevelt Island Plan 4》他15点、川俣正写真パネル等資料6点、晴雲齋(根本雪峨か)資料1点、土方稻嶺《桐に軍鶏図屏風》1点、沖一峨《四神図屏風》2点、根本幽峨《太公望・雪中三顧図屏風》2点

4 採集・拾得等資料

なし

5 保管換資料

なし

6 分類換資料

なし